

家を建てた人たち

三重県産木材で



実例集

# I

河芸町Tさん邸の場合

## 自然体で暮らしたくて 採光と通気を考えた杉の家にしました。

「家づくりのテーマは『自然体で暮らしたい』でした。知り合いの材木店が直接建設してくれたおかげで、構造材から内外装まで、すべて無垢の杉の木を使っています」

茶系のサイディングが大半の住宅地の中で、ひときわ個人的な黒塗りの外装は、縦張りにした杉板を自然塗料で塗ったもの。窓枠だけは木の色を残して、美しいコントラストを見せている。

屋内に足を踏み入れると、四方に張られた杉板に圧倒される。檜の通し柱以外は、建具類まですべて杉。合板や石膏ボードはおろか、浴室以外はアルミサッシさえ使われていない。トイレや物置までも無垢板張りで、使用された木材量は、通常住宅の四倍ほどにもなるという。木の家に合うよう、主要な家具類は作家に広葉樹で詠んでもらっている。

この家の特徴は、ただ木が多用されているだけではない。ダイニングは土間とされ、太陽熱温水をキッチンや風呂に用いたり、随所に採光・換気用の小窓が設けられたりと、自然素材や自然エネルギーが効率よく利用されているのである。

「サッシじゃないから、多少は隙間風も入るけど、夏は涼しいし、冬は結露しないから快適ですよ」

設計者によれば「おらかな施主さんなので、おらかな家であるよう心がけました」とのことだ。



写真右／二階の東端は、物干スペースになっている。日当たりがよく、風もよく通るので、屋外さながら洗濯物が乾く。吹き抜けにはトップライトが配され、土間のダイニングキッチンへと、やわらかな光がふり注ぐ。

写真中／リビング横の和室。ここだけは漆喰壁とされている。

写真左／外観は黒と生成のツートン。手前部分は、渡り廊下で住居とつながる喫茶店だ。

●設計／suga建築設計 TEL.059・279・3455

施工／余谷木材 TEL.05988・2・1202



リビングの奥に見えるダイニングキッチンが土間になっている。

### 木の継ぎ 木は湿度を調整してくれます

山に生えていた頃、地中から水分や養分を吸い上げていた無数の管が空洞となって、湿度が高いときはそこへ水分を吸収し、乾燥すると蓄えた水分を放出します。つまり、木は常に呼吸しながら湿度を調節しているのです。

# 2

尾鷲市Tさん邸の場合

## 林業の振興と、快適な暮らしのために 尾鷲桧、紀州備長炭を多用しました。

自らも林産物である紀州備長炭を製造販売するオーナーは、地場産業振興の一助になればと、総尾鷲桧造りの家づくりを決意。思いを同じくする建築会社が「伝統工法を継承するためにも、ぜひやってみよう」と意気投合して、この家は完成した。

構造材から床材、バルコニーやキッチン、浴室にいたるまで、ぜいたくに尾鷲桧が使われた邸内は、森林浴もかくやの芳香を漂わせている。外壁、天井裏、押入には杉を使っているが、合板の類は一切用いられていない。無垢材とのコントラストがすがすがしい土壁は、藁スサの入った真壁で、撮影後に仕上げ塗りが施されている。

床下や土間には、空気浄化と調湿のため、自家製の備長炭が大量に用いられ、木との相乗効果で室内はマイナスイオンに満たされている。

囲炉裏や掘り炬燵、作りつけの家具や建具まで、オーナーがとことんこだわった家だけに、当初は職人たちも戸惑いを隠せなかったが、作業が進むにつれて、本来の技術が活かされることに充実感をおぼえていったという。

「この地方には、いい桧がある。いい腕を持った職人たちも大勢いる。それなのに、新建材によるプレハブ住宅ばかりが増えるのは納得できない」



囲炉裏をしつらえた居間は吹き抜けになっている。

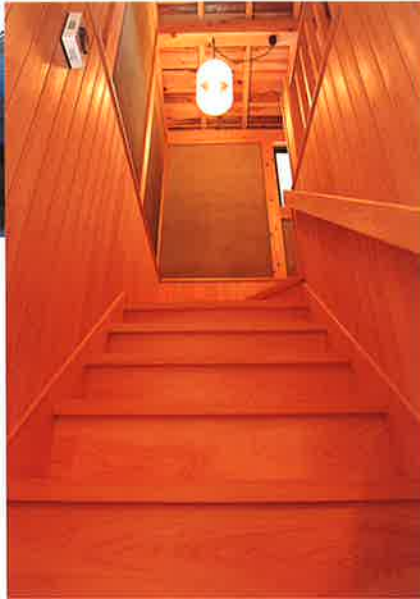


写真右／蜜ろうワックス仕上げの桧階段。表面がさらっとしているので、素足の感触が心地いい。

写真中／完成間近の外観。土壁はまだ中塗りの状態で、この後数ヶ月かけて十分に乾燥させてから、仕上げ塗りが施された。

写真左／視覚、触覚、嗅覚すべてでリラックスできる桧風呂。モルタルには遠赤外線と吸湿効果を狙って備長炭が埋め込まれている。

●設計・施工／大徳建設株式会社 TEL.05973・9・0234



### 木の雑学 木は更新可能な資源です

石油等の地下資源には限りがありますが、木は適正な植林と伐採により、永久に再生更新が可能です。地下資源に乏しく、緑の多い日本では、戦前戦後に植林された杉や桧の多くが、今伐り時を迎えているのです。

# 3

伊勢市Uさん邸の場合

## 求めたのは、森の中にあるような すがすがしさ。

ガルバリウム鋼板張りのクールな外観。しかしそれとは対照的に、天井や床、階段など内装にはふんだんに杉が使われているUさんの住まいは、結婚を機に建てられたもの。

若い夫婦は新しい生活の拠点づくりにあたって、それぞれ「こんな家に暮らしたい」との思いを箇条書きにして、経験豊かな建築家に託した。

ジャズピアノを弾く夫からは「ライブができる雰囲気ある空間を」。花屋を営む妻からは「緑が映える家に」。建築家は、それらソフト面の実現に加えて、急勾配の立地という難問を、自然のままの傾斜を有効利用することで見事にクリアし、住宅地に「森の家」を完成させた。

最も面積の狭い一階はガレージで、玄関のある二階からさらに上をめざすと、三階にリビング、和室、キッチン、浴室と、主な居住スペースが集約されている。

杉板張りのリビング、竹天井の和室を見ていると、とても鉄骨造りとは思えない。バルコニーに面した窓は、わざと掃き出しにせず、空と緑だけを見せて、向かい屋が視界に入らないよう考えられている。

「家ができてリビングのソファに腰かけた時、初めてそれに気がついたんです」

春は桜、秋には紅葉と、四季折々の借景を額縁に入れて、夫妻はくつろぎタイムを楽しんでいる。



リビングとバルコニーの天井板を一直線にして、拡がりを持たせている。

### 木の雑学 木の香りには癒し効果があります

森林浴で知られる針葉樹などの香り成分フィトンチッドは、血液や脳波に働きかけ、興奮を鎮めるなどの薬効を発揮してくれるので、落ち着くのです。近ごろハーブやお香が人気なもの、その香りに心癒されるからでしょう。



写真右／和室天井の竹は、設計者と施主で並べた。  
写真中／鉄と木の質感が美しいコントラストを見せる階段。  
写真左／傾斜地をうまく利用して建てられている。  
●設計／エム・アール設計 TEL.0596・25・7366  
施工／森本建設 TEL.0596・36・3896

一志町Yさん邸の場合

夏涼しく、冬はあったかい。

木の家は、先人の智慧の結晶です。

「以前の住まいは風通しが悪く、結露とカビに悩まされたので、呼吸する自然素材の家にしたかった」  
 オーナーは知人の建築家に設計を依頼し、新建材を使わない木と土壁の家を建てた。  
 構造材や床材には杉をふんだんに用い、一部に針葉樹合板は使用するものの、ビニールクロスや石膏ボードの類は使われていない。コストを抑えるため、二階の天井が二階の床を兼ね、壁は石膏による下塗りの状態で引き渡しとなった。いつか上塗りをすると思っいるが、シンプルな表情が気に入って、色を変えたくなら塗ればいいと、そのままにしている。  
 木の床に馴染む年代物の家具類は全てオーナー夫人の祖父母の形見。見るからに頑丈そうなダイニングテーブルは、大工仕事で詠えてもらった。新旧の木が、違和感なく溶け合っているのは、どちらも無垢材だからだろう。  
 「結露は全くしないし、よその家に行くと、我が家の冬の暖かさや夏の涼しさを実感しますね」  
 外壁に横張りされた米杉の板は、建築家の指示によりあえて無塗装。建築後数年を経て、日当たり具合により色が一定ではなくなってきたが、年月を経ながら落ち着いた風合いになっていくのが狙いという。  
 照明や設備費を極力抑えるなど、努力すればローコストでも木の家が実現できる好例といえよう。



杉板張りのリビングに、古い家具がしっくりとなじんでいる。



写真右／外壁は、無塗装の無垢板が横張りにされている。  
 写真左／玄関先。壁は下地塗りのままだが、シンプルな表情がいい。  
 ●設計／アーキ設計 TEL.059・225・7020  
 施工／川口組 TEL.059・232・3511

**木の雑学** 木は保温・断熱性に優れています

木には無数の空気管が通っていて、常に呼吸しています。夏は湿気を吸ってくれるので涼しく、冬は空気層が断熱材となって暖かいのです。炎天下の鉄は熱くて触ることができませんが、木ならそんなことはありませんよね。

# 5

尾鷲市 Nさん邸の場合

## 住み心地と風景との調和、地球環境を 考えれば、現地調達の本の家になる。

永年住みなれた京都を離れ、定年を前倒ししてまで求めたオーナーの終の棲み家は、尾鷲松や熊野産の杉がふんだんに使われたログハウス。といっても丸太積みではなく、ログの雰囲気は十分に味わえて間取りの自由が利く、ポスト&ビーム工法で建てられている。地元材だから、緑豊かな周囲の環境にも違和感なく溶け込んでいる。

玄関を入ると、すがすがしい木の香りが体全体を包み込む。リビングや寝室はもろりん、トイレや収納スペースにいたるまで、床も、壁も、天井もすべて無垢板張り。パーフェクトの風呂にまで、壁面には松を張って、松風呂の風情を楽しんでいる。

「夏、窓を開ければさわやかな涼風が吹き込み、耳を澄ませばせせらぎが聞こえてくる。冬は薪ストーブで暖をとる。最高だね」

まるで森の暮らしを楽しむかのようなオーナーの趣味はヨットと音楽。吹き抜けの開放的なリビングで、自慢の真空管アンプステレオに耳を傾けたり、時には自らギターを奏でたり。都会からやってくる友人たちは「別荘のようだ」とうらやむ。

「木は音をまろやかに響かせてくれるから落ち着くね。それに、役割を終えたら土に還るのがいい」

長年環境問題に取り組み、オーガニックライフを志向するオーナーならではの住まいといえる。



真空管アンプのステレオが置かれた吹き抜けのリビング。

### 木の癒学 木は音や光をやさしく反射します

無垢の木材は音や光を適度に吸収し、やさしく反射してくれるので、目や耳が疲れにくいのです。マウスを使った実験では、金属やコンクリートの飼育箱より、木製ケージで飼育された個体の方がずっと長生きしています。



写真右／カウンターに向かう丸太スツールも、ログビルダーの作。  
写真中／玄関にはスリッパが置いてあるが、誰も履きたがらない。  
写真左／土壁仕上げの外観は、声高にログハウスを主張しない。  
◎設計・施工／キャトルウッド TEL.05987・2・2096

津市Kさん邸の場合

## 自然素材の家にしたら 妻の体調がすっかりよくなりました。

オーナー夫妻は、ハウスメーカーの展示場や工務店を訪ねるなど、三年がかりで理想の家を模索するうち、ようやく自然素材と伝統建築に関心の高い建築家とめぐり会った。

建材の大半は杉で、外壁から構造材、床、壁、天井まで無垢板が用いられ、それは、トイレや洗面所、キッチンにいたるまで徹底されている。建具類も杉製で、面積の大きな掃き出し窓にもサッシは用いられず、棧のない建具が詠えられている。

全面が木では少々しつこいだろうと、玄関やリビングの二部に採用された塗り壁は、竹と縄で編んだ下地に、藁ササを混ぜた白土を塗る、当地伝統のエツリ壁となっている。

和室には、伊勢で手漉きされた和紙が腰貼りに使われていたり、寝室には伊勢木綿があしらわれていたり。

「土や紙、布、そして建築職人の技。家はその地域にある自然素材や伝統工法で建てられるべき」との設計者の思いが、あまるところなく表現されている。

「風がよく通り、木や土壁が湿気を吸ってくれるので、夏もエアコンなしで過ごせます」

以前の住まいでは、皮膚にアレルギーの症状が現れていた夫人は、新築以来体調がすっかりよくなったという。



ぜいたくに杉が使われたリビング。キッチンにも杉が多用されている。

### 木の雑学 木の家は健康的

石油系塗料や接着剤を用いない無垢材の家は、有害物質を発生させないのでシックハウス症候群とは無縁です。また木は調湿作用により、カビやダニの原因となる結露を防ぐので、アトピーや喘息の方でも安心です。



写真右／土間と土壁の玄関。その奥には杉一色の空間が。  
写真中／洗面所も木製。天板は、定期的なメンテナンスが必要だ。  
写真左／木と日本瓦が基調の外観。エントランスも外壁と統一。  
●設計／I設計室 TEL.0593・51・8301  
施工／一峯建築 TEL.059・252・0082

河芸町Kさん邸の場合

## 中学生のとき、法隆寺を見てから 将来住むなら絶対、木の家と決めてました。

「家には一方ならぬ思い入れがあって、いろんな住宅展示場を見て回ったのですが、ハウスメーカーの家には満足できませんでした。そんなとき、環境問題に関心の高い建築家と偶然出会い、目指す方向がびたりと合ったので、家づくりをお任せしたんです」  
 オーナー夫人は、中学生のとき法隆寺を見て、千年以上を経た木造建築物のすばらしさに感動を覚え、将来建てるなら絶対に木の家にしようと思い誓ったのだという。  
 念願の新居は、床から腰壁にかけての桧と土佐漆喰の組み合わせがすがすがしい。梁や桁は杉、土台や柱には松と、無垢材がふんだんに用いられ、限られた予算で松いっばいの家を実現するため、大黒柱や窓の額縁にはFSC認証材、階段やトイレには桧の間伐材や端材が適材適所に用いられている。  
 「外断熱だから、リビングの温風機一台で家じゅう暖かいですよ。予算の関係もあって二階の内装は未完成ですが、安易にビニールクロスを貼るようなことはしたくないし、子どもだって今は一人ですが、将来増えるかもしれない。少しずつ手を加えながら、この家に長く住み続けたいと思っています」  
 建てたときが百点で、年々価値を下げて二、三十年で使い捨てにされる家とは、家の性能も住人の思想も、あきらかに違うのである。



木造で柱のない大空間を実現するため、建築金物も工夫されている。

### 木の難学 木の家は長持ち

木材は金属やコンクリートと違って、徐々に乾燥しながら強度を増していきます。幾百年以上の古民家が見直され、再生されるのは、無垢材ゆえ。また、自然素材である木は、役割を終えれば燃やしたり、土に還すことができます。



写真右／白壁の飾り棚には、雑穀をあしらった人形が。  
 写真中／外装はサイディング。外断熱工法により、保温性は抜群だ。  
 写真左／階段には桧の集成材が効率よく用いられている。  
 ●設計・施工／山の加工場ネットワーク TEL.0593・85・6002





健康な暮らしと

ふるさとの環境

産業を守るために

家を建てるなら

近くの山の木で

やさしさとゆたかさと。  
三重の木はいつもとなりに。



**三重県木材PR委員会**

三重県津市桜橋1丁目104

TEL.059-228-4715 FAX.059-226-0679

<http://www.inetmie.or.jp/mokuren/>

三重県産木材を使う住まいのご相談は

---